

極北の神秘にあふれた島々を訪ねる感動の旅

スピッツベルゲン島と
神秘のフランツヨーゼフ諸島探検

13日間



わずか150年ほど前に発見されたロシア領のフランツヨーゼフ諸島は、世界で最も隔絶した手つかずのユーラシア最北の群島です。正式な発見は、南極大陸発見より半世紀以上も遅く、1873年のことでした。191の島々からなる群島には豊富な海鳥類の他セイウチ、ホッキョクグマ、アザラシ類、ホッキョクキツネ、シロイルカなどが生息地しています。

訪れる人も稀で、諸島のあちこちには探検家の足跡が窺がえる遺品が残っています。スピッツベルゲン島とフランツヨーゼフ諸島への旅は浪漫あふれる感動の旅です。

●旅行開始日～終了日・期間・利用客船

旅行開始日～終了日	期 間	利用客船
2016年7月 5日(火)～7月17日(日)	13日間	シー・アドベンチャラー

- 乗船地／解散地： ロングイヤー・ビーエン
- 食 事 条 件： 朝食12回、昼食11回、夕食12回

■スケジュール

日 次	日 程		食 事 朝 昼 夕	宿 泊
1	7/ 5 (火)	午後 タ刻	○	船中泊
2	7/ 6 (水)	終日		
3	7/ 7 (木)	終日		
4	7/ 8 (金)	終日	○	船中泊
5	7/ 9 (土)	終日	○	船中泊
6	7/10(日)	終日	○	船中泊
7	7/11(月)	終日	○	船中泊
8	7/12(火)	終日	○	船中泊
9	7/13(水)	終日	○	船中泊
10	7/14(木)	終日	○	船中泊
11	7/15(金)	終日	○	船中泊
12	7/16(土)	終日	○	船中泊
13	7/17(日)	午前	○	

(備考1)食事欄：「H=ホテルでの食事、○=船内食」を表します。

■このクルーズには以下も含まれています。

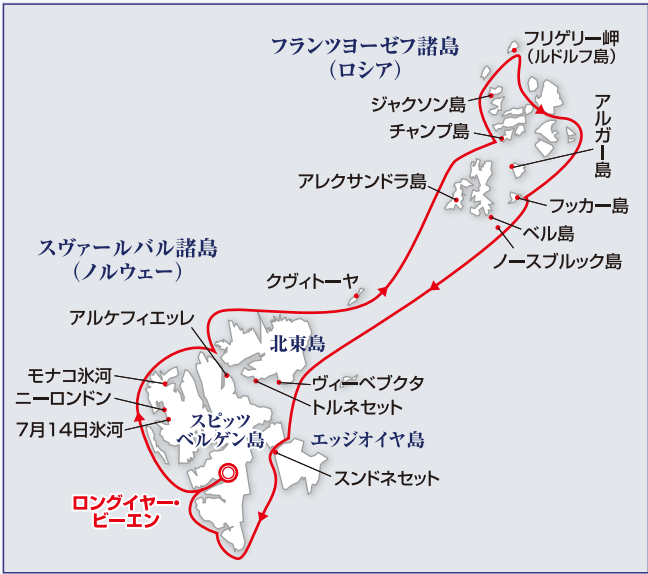
- (1)旅行開始日の前日に、ロングイヤー・ビーエンにご到着の場合、「空港からお客様の宿泊予定ホテルまで」の送迎
- (2)旅行開始日の当日：●ロングイヤー・ビーエンにご到着の場合、「空港から港まで」の送迎
●ホテルに宿泊されている場合、「宿泊されたホテルから港まで」の送迎
- (3)旅行終了日、「港から空港まで」及び「港からクォーク社指定の場所まで」の送迎

●この探検クルーズにご参加のお客様は、ロシアの査証(ビザ)が必要となります。

- ロシアのビザ代実費及び取得手続き手数料は、クルーズ代金には含まれておりません。別途お支払いいただきます。ロシアビザ取得に必要な書類(取得までに日数がかかりますので、お早目にご提出ください)
- (1)パスポート(日本帰国時6ヶ月以上有効なもの)
※パスポート未使用査証欄／見開きで2頁以上必要
- (2)写真1枚(縦4.5cm×横3.5cm) ※3ヶ月以内に撮影されたもの
- (3)ビザ申請から受領まで2週間以上の期間がある場合は無料 但し、それ以外は有料
※詳細はお問い合わせください。
- (4)査証(ビザ)代取得手続き手数料／4,320円

探検クルーズのハイライト

- 滅多に訪れる事のできない極北のフランツヨーゼフ諸島に上陸し見学します。
- ホッキョクグマやセイウチなど北極の野生生物との出会いや、ヒメウミスズメなど50種類にもおよぶ北極の海鳥を観察いただけます。
- 船内ではクォーク社の極地の専門講師による北極講座をお楽しみいただけます。
- 白夜による長い日照時間を体験します。



●クルーズ代金(大人／お一人様)

※単位：米ドル(US\$)

シー・アドベンチャラー	乗船地／ロングイヤー・ビーエン 下船地／ロングイヤー・ビーエン
旅行開始日	7月 5日(火)
旅行終了日	7月17日(日)
期 間	13日間
客室タイプ	トリプル(3人部屋)
	ローワー・ツイン(丸窓)
	メイン・ツイン(丸窓)
	メイン・ツイン(角窓)
	スーベリア
	デラックス
	スイート
アドベンチャー・オプション	カヤック、ハイキング

※相部屋：トリプル、ローワー・ツイン(丸窓)、メイン・ツイン(丸窓)、メイン・ツイン(角窓)の客室タイプに限り同一料金で相部屋のご予約を承ります。
※トリプル客室のベッドは、2段ベッドとシングルベッドです。



●詳細日程

第1日目 ロングイヤー・ビーエンにて乗船／出港

探検船シー・アドベンチャラーでスヴァールバル諸島、スピッツベルゲン島のロングイヤー・ビーエンを出港します。

氷河に覆われたごつごつした山並みに代表されるスピッツベルゲン島の景色をお楽しみください。クォーク・エクスペディション社のチームにより、フランツヨーゼフ諸島探検の歴史と素晴らしいワイルドライフについて数々の北極講座が開かれます。

第2日目 7月14日氷河とニーロンドン観光

スピッツベルゲン島西岸沿いに北上します。ゾディアック・ボートに乗り換えて雄大な氷の断崖、7月14日氷河周辺をクルーズしながらムラサキハマシギ、ホンケワタガモ、カオジロガン、キョウカアジサシ、多くの海鳥などの見学を予定しています。その後、かつて大理石の採石場であったニーロンドンを訪れます。ここではスヴァールバルライチョウや足の若干短いスヴァールバル固有のトナカイが見える可能性があります。

第3日目 トルネセット(北東島)とアルケフィエッレ(スピッツベルゲン島)観光

トルネセットでは北極特有の動物の一つ、セイウチに出会えるでしょう。セイウチの殆どは雄でよく砂浜に群れています。また、ここでは、スノーシュー(洋式かんじき)を試す機会があるかもしれません。その後アルケフィエッレ(鳥の山)のヒメウミスズメ、ハシブトウミガラス、ミツユビカモメなどが営巣する断崖下をゾディアック・ボートで周遊すると、騒々しい程の鳥の鳴き声と繁殖活動の様に圧倒されることでしょう。崖下には落ちてくる卵や雛を辛抱強く待つホッキョクキツネやホッキョクグマが見られる事があります。

第4日目 アンドレーネセットとクルデメルピンテン(クヴィトーヤ島)観光

スヴァールバル諸島の東端部分では、めったに上陸できない離れ島クヴィトーヤ島への上陸を目指します。このロシア国境に近い島は常に氷冠に覆われています。

岬の名前となったスウェーデンの探検家と仲間が、1800年代末に北極点へ向けて飛び立った気球もろとも遭難した、アンドレーネセットに上

陸を試みます。また、クルデメルピンテンではセイウチの群れに会える可能性が高い場所でもあります。

第5日目 アレクサンドラ島(フランツヨーゼフ諸島)観光

第二次世界大戦の名残であるドイツ軍のシャッツグレーバー基地跡が見えます。ここには、1996年まで機能していたロシアのネグルスカヤ基地と滑走路があります。

第6日目 フリゲリー岬(ルドルフ島)とノルウェー岬(ジャクソン島)観光

フリゲリー岬はフランツヨーゼフ諸島最北端に位置していて、銅板額と十字架が立っています。ここは、ヨーロッパ最北の地でスピッツベルゲン島よりもさらに北にあります。

ルドルフ島のほとんどは氷冠に覆われていて、氷点以上の気温になるのは夏の数週間だけです。条件が許せばフランツヨーゼフ諸島最北の島ルドルフ島に上陸できるかもしれません。

ノルウェー岬は砕氷船でも近づけない事がありますが、夏のツンドラには様々な北極の花々が咲き乱れて植物好きの方には最適です。

ここは1895年～96年の冬、探検家ナンセンとヨハンセンが北極点挑戦からの帰路7か月を過ごした所です。彼らの急ごしらえの越冬小屋跡が今でも判別できます。海にはホッキョクグマ、セイウチ、シロイルカ、イッカクなどが観察できる可能性もあります。

第7日目 チャンプ島とアルガー島観光

景色の美しいチャンプ島に上陸を予定しています。上陸予定のフューム岬には最大直径3mにもなる大小の球形砂岩が転がっています。

午後、上陸予定のアルガー島には、米ツィーグラ探検隊(1901～02)が使った基地、キャンプ・ツィーグラの残骸が残っています。

第8日目 フッカー島観光

フッカー島のティカヤ・ブクタ(静かな湾)に近づく、諸島最大の海鳥営巣地である玄武岩の断崖、ルビニ・ロックが見えてきます。

双眼鏡とカメラを持って前甲板から子育てをするハシブトウミガラスやミツユビカモメなど

を観察しましょう。その他湾内にはソ連時代の基地跡があり、ホッキョククジラが見られる可能性があります。

第9日目 フローラ岬(ノースブルック島)とベル島観光

北極探検史は北極点に挑戦して敗れた人と探検船についての話であふれています。ノースブルック島のフローラ岬は1880年にリー・スミス探検隊により発見されましたが、乗っていた探検船エイラ号は島の沿岸近くで沈んでしまいました。ジャクソン探検隊(894-97)の碩大な探検船の遺物はまだ残ったままです。

午後は、ベル島に上陸予定です。少し歩いて、驚異的によく保存されている、リー・スミス隊(1881～82)の探検小屋エイラ・ロッジを訪ねます。

第10日目 ヴィーベプクタ(北東島、ノルウェー)観光

スヴァールバル諸島に戻ってきました。ヴィーベプクタでは今までの陸地とは全く異なって、氷河の無い地勢の北極砂漠でのハイキングを予定しています。海から1kmもの内陸にクジラの骨が残っています。

第11日目 スンドネセット(バレンツオイヤ島)とドレリットネセット(エッジオイヤ島)観光

上陸してみると地形が変わっている事に気づくでしょう。ハイキングを楽しみながら、鳥を観察したり、極地の淡水湖と花のライフサイクルを学んだりします。運が良ければセイウチに遭遇できるかもしれません。

第12日目 ガシムナ、イスビョーン・ハムナ、ブレボレン(ホルンスン)観光

ポーランドのホルンスン基地(1957年設立)の訪問許可をもらえれば、1978年に改築されて、通年観測が出来るようになった基地を訪れる予定です。現在、進行中の観測は地球電界の大きさ、氷河の活動そして気候変動要素を検出する事などです。

第13日目 ロングイヤー・ビーエン入港／下船

朝、ロングイヤー・ビーエンに入港します。エクスペディション・チームに別れを告げて下船します。下船後、空港及び町の広場までお送りいたします。